

**市町村指定文化財取材票<表>**

<b>取材日</b>	2023年	2月	4日	(記入者) 西田裕美	
<b>取材参加者</b>	石井	大谷	小倉	鈴木	茶谷
	西野	灰藤	東辻	宮本	本井
<b>取材対象先</b>	奈良市：西光院の木造地藏菩薩半跏像・木造弘法大師坐像				

<b>所在地</b>	奈良市高御門町21				
<b>所有者（取材 対応者）名</b>	西光院 住職（個人情報守秘）		<b>連絡先</b>	0742- 26-2234	
	<b>PCアドレス</b>				

<b>取材申込</b>	申込先・行政名など：西光院				
-------------	---------------	--	--	--	--

<b>市町村 指定文化財</b>	彫刻 2 軀	木造地藏菩薩半跏像 1999(平成11)年 4月14日指定、木造弘法大師坐像 1985(昭和60)年 3月 7日指定
	建造物 棟	

<b>文化財指定 理由</b>	木造地藏菩薩半跏像：宿院仏師の立場の変化を示す作例として重要視されるもの。室町時代の地藏菩薩の秀作としても貴重である。木造弘法大師坐像：裸形の弘法大師像は全国でも他に一軀のみで数少なく、当時の信仰の姿を知る上でも貴重。				
---------------------	---	--	--	--	--

**文化財の状況**

	<b>設備・対策・点検・通知方法など</b>	<b>記入者の感想</b>
<b>防火対策</b>	消火器設置。警報装置が設置され、居間に通じるようになっている。	お堂につながる場所にご住職が住みそこに警報が通じるので、万一の時は素早く対応できると思われる。
<b>獣害対策</b>	<b>被害の有無、対策など</b> ねずみがたまに来ていたが、像に被害はない。	<b>記入者の感想</b> 像は美しく保たれている。

<b>管理者の全 体的要望・ 提案など</b>	特になし。				
---------------------------------	-------	--	--	--	--

<b>取材を終えて感じた文化財保護状況の全体的今後の課題（修復、維持、管理、環境など）</b>	お堂につながる場所にご住職が住んでおられることが、何事においても安心できる。地藏菩薩半跏像は光背の光を表す棒が複数欠けていたが多くは残っており像自体にも傷みなどは見られなかった。弘法大師坐像は、手首から奥は白っぽい色が見えていて衣から出ている頭部や手は黒っぽい色だった。自然に変色したものと思われる。防犯対策もされていた。				
---	---	--	--	--	--

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	2月	4日	(記入者) 西田裕美	
取材参加者	石井	大谷	小倉	鈴木	茶谷
	西野	灰藤	東辻	宮本	本井
取材対象先	奈良市：西光院の木造地藏菩薩半跏像・木造弘法大師坐像				

《境内写真撮影不許可》

文化財指定名 木造地藏菩薩半跏像・木造弘法大師坐像

山門	山門
----	----



高御門町の坂に面する塀	「紫雲山 西光院」と書かれた門前の石
-------------	--------------------



文化財の由緒・説明板の有無など	記入者の感想
-----------------	--------

<p>木造地藏菩薩半跏像の像内の墨書によって宿院仏師の源三郎・源次らが作ったことがわかる。もともと宿院仏師は造仏補助として関わっていたがこの作例では「仏師」として像を造っている記載があり、立場の変化を示し重要。木造弘法大師坐像は、裸体の像が少ない上に、弘法大師の裸形像は他に鎌倉に伝わるのみ。西光院では十年に一度、衣を着せ替えが行われる。説明板は門を入ってすぐの場所に立っている。</p>	<p>木造地藏菩薩半跏像は室町時代、木造弘法大師坐像は鎌倉時代の作でどちらも何百年も経っているものだが、お像の傷みは感じられずよく伝わってきていると思った。弘法大師の裸形像に衣を着せるのは、大師がまだ生きているという考えに基づく行為であることを今回の取材をきっかけに知った。信仰と像の表現のしかたが結びついているのが興味深かった。</p>
--	---